

国際フォーラム

豊臣期大坂凶屏風の

「謎」をとく

日時 2009年11月8日[日]
13:00～16:40



会場 **大阪産業創造館**
(大阪市中央区本町1丁目4番5号)

定員 **300名**
(参加費無料・要申込)
詳しくは裏面をご覧ください。

講演 **Barbara Kaiser**
(バーバラ・カイザー／オーストリア・エッゲンベルグ城博物館主任学芸員)

Isabel Tanaka-Van Daalen
(イサベル・田中・ファン・ダーレン／財団法人 日蘭学会)

跡部 信
(あとべ・まこと／大阪城天守閣主任学芸員)

主催：関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター
特別協力：大阪城天守閣

国際フォーラム

豊臣期大坂図屏風の「謎」をとく

—開催にあたって—

一隻の屏風が日本とオーストリアの歴史をつなぐ。

2006年、色鮮やかな日本の屏風がオーストリアで発見されました。その屏風はオーストリア第2の都市、グラーツ市にあるエッゲンベルグ城「日本の間」の壁面に、一扇ずつ分割されて嵌め込まれていたのです。屏風は17世紀中頃の制作とみられ、画面に描かれていたのは、豊臣秀吉が築いた大坂城と、平和に繁栄するその城下の光景でした。豊臣時代の大坂を描いた絵画は現存数が少なく、エッゲンベルグ城の屏風はきわめて貴重な作品といえます。

この屏風は「豊臣期大坂図屏風」と名づけられ、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターとエッゲンベルグ城博物館、大阪城天守閣の3者間で共同研究が進められてきました。そして今年の10月2日には、「豊臣期大坂図屏風」が取り持つ縁によって、大阪城天守閣とエッゲンベルグ城との間で友好城郭提携が結ばれることになったのです。

そこでこの度、その記念行事として、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センターでは、国際フォーラム「豊臣期大坂図屏風の「謎」をとく」を開催いたします。本国際フォーラムでは、3人の講師を迎え、「豊臣期大坂図屏風」に描かれた風景を読み解き、日本とヨーロッパの交流史をたどりながら、この屏風がオーストリアでどのように扱われてきたのか、その謎にせまります。

折りしも本年は日本とオーストリアの間に国交が結ばれて140周年の節目の年にあたります。この国際フォーラムを通じて、オーストリアとの交流を身近に考える機会となれば幸いです。

申込方法

往復はがきに氏名・住所・電話番号をご記入のうえ、「11月8日国際フォーラム申込」と明記してお申込ください。聴講券の発送をもって申込受付のご連絡にかえさせていただきます。なお定員に達し次第、受付は終了させていただきます。

申込・お問合せ先

関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学博物館内
TEL06-6368-0095

E-mail naniwa@jm.kandai-u.ac.jp
http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/naniwa/

NHKハイビジョン特集〈BS hi〉 新発見 大坂図屏風の謎

～オーストリアの古城に眠る太閤秀吉の夢～(仮題)
日時 10月31日(土) 20:30~22:00(放送予定)

会場周辺地図



地下鉄「中央線」堺筋本町駅下車 徒歩約5分
地下鉄「堺筋線」堺筋本町駅下車 徒歩約5分

